



7月のほけんだより



令和3年6月30日
やよいこども園
看護師 芝山

暑い季節がやってきました。梅雨明け直後は暑い日が続くので、熱中症に注意しなくてはなりません。水分補給や体調管理に気をつけながら、涼しい時間帯は外遊びをして、暑さに負けない体づくりを心がけましょう。

RSウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症のみならず、全国的にRSウイルス感染症が大流行しています。新型コロナウイルスの検査が陰性でも、咳や発熱が続く時は医療機関を受診してください。重症化の予防、感染拡大防止のためにも、症状が改善するまではご自宅の様子を見るようにしましょう。

RSウイルス感染症は、4～5日の潜伏期間の後、鼻水・咳・発熱などの風邪に似た症状が現れます。通常は1週間前後で回復しますが、なかには肺炎や気管支炎を発症する子供もいます。特に、心肺の基礎疾患がある子は重症化しやすいので、注意が必要です。また、新生児・低出生体重児・生後6か月未満の乳児も重症化しやすいと言われています。(乳児は外から帰ったら水を飲ませる)をしっかり手洗い・うがいを行い予防しましょう。

終生免疫ではなく、2歳までにほぼ100%感染すると言われていたため、毎年かかる子どもも多いようです。

症状が軽い場合は、風邪を引いた時と同様、水分補給、睡眠、栄養、保温に注意し、安静にして経過を見ます。脱水気味になると、痰が粘稠になって吐き出すのが困難になるので、水分をこまめに与えましょう。

***登園には「登園届」の提出が必要です。**

梅雨の時期の注意点

■ 食中毒

食中毒は6月から9月頃にかけて多く発生します。

■ 事故

雨の日は傘をさすことで視界が悪くなり、事故の危険性が高まります。また、雨で滑りやすく、転びやすくなりますので十分に注意してください。

■ 風邪

蒸し暑さから汗をかくことが増えますが、朝夕は気温が下がり寒くなります。汗をかいたらすぐに着替え、寒くなったら上着などで体温調節を行うようにしてください。



夏に多い感染症

ウイルス感染によっておこる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をして医師の診断を受けましょう。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水疱、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1～4日ぐらいで解熱します。



フェール熱

フェールで感染することもあり、高熱が3～5日くらい続き、のどの痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化の良いものを食べましょう。

手足口病

手のひら、足の裏、口の中に水疱ができ、発熱することもあります。食事はのど越しの良い食べものしましょう。



流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目や二や涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。